

信州の環境にやさしい農産物認証 栽培事例（水稻）

地域（標高）	長野市大字北堀・富竹ほか(340m)
土壌（土性）	灰色低地土（埴壤土）

項目	生産計画の内容	補足メモ																							
1 栽培 状況	(1) 品目	水稻（品種：コシヒカリ、ミルキークイーン、もちひかり）																							
	(2) 面積	467 a																							
	(3) 栽培戸数又は労働力	1戸																							
	(4) 栽培期間	平成26年5月～平成26年10月																							
	(5) 収穫期間	平成26年9月27日～平成26年10月7日																							
	(6) 収穫量	H25実績 30,000 kg（うち出荷量：30,000 kg） H26計画 30,416 kg（うち出荷量：30,416 kg）																							
2 栽培 方法	(1) 土づくり	堆肥、稲わらによる土づくりを行う。珪酸塩白土を施用し、多量要素である珪酸を補給している。																							
	(2) 播種	平成26年5月13日																							
	(3) 育苗	平成26年5月13日～6月10日																							
	(4) 田植え	平成26年6月10日～6月18日																							
	(5) 施肥	<p>○化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥施用技術 ・有機質肥料施用技術 <p>○技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌・堆肥分析結果に基づき肥培管理を行う。 ・自家製の完熟したサフォーク堆肥（モミガラ、米ヌカ、コーンコブのキノコ廃培地、EM菌）を10a当り250kg施用することにより、化学肥料の施用を控えている。 <p>肥料の施用状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">肥料の種類</th> <th rowspan="3">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="4">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">窒素</th> <th rowspan="2">リン酸</th> <th rowspan="2">加里</th> </tr> <tr> <th colspan="2">うち化学由来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機実り一発</td> <td>35</td> <td>3.5</td> <td>1.75</td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>35</td> <td>3.5</td> <td>1.75</td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>地区慣行施肥量 (kg/10a) 9.0 低減率 (%) 80.5</p>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)				窒素		リン酸	加里	うち化学由来		有機実り一発	35	3.5	1.75	3.5	3.5	合計	35	3.5	1.75	3.5
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																							
		窒素			リン酸	加里																			
		うち化学由来																							
有機実り一発	35	3.5	1.75	3.5	3.5																				
合計	35	3.5	1.75	3.5	3.5																				

2 栽培方法

(6) 病虫害防除	<p>○化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術 ビーバーによる畦畔雑草の草刈り（年4回程度）</p> <p>○技術を導入する際の考え方</p> <p>催芽時に微生物農薬を使用し、いもち病、もみ枯細菌病等の病害防除を行う。 苗箱施薬により、いもち病・苗立枯病の病害防除、イネミズゾウムシ、イネドロオムシ、ニカメイチュウ等の害虫防除をしている。</p> <p>病虫害防除の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>地域慣行農薬使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺虫殺菌剤</td> <td>ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤</td> <td>50g/箱</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">殺菌剤</td> <td>エコホーフ</td> <td>200</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td rowspan="2">5</td> </tr> <tr> <td>タチガレン粉剤</td> <td>3~6g/箱</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">除草剤</td> <td>ビラクノンフロアブル</td> <td>500ml/10a</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">4</td> </tr> <tr> <td>ヤイバジヤンホ</td> <td>250g/10a</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td>合計</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>削減率 (%)</td> <td>50.0%</td> </tr> </table>		使用農薬名	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	地域慣行農薬使用回数	殺虫殺菌剤	ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤	50g/箱	3	1	3	1			殺菌剤	エコホーフ	200	1	1	1	1		5	タチガレン粉剤	3~6g/箱	1	1	1			殺虫剤								3	除草剤	ビラクノンフロアブル	500ml/10a	1	1	1			4	ヤイバジヤンホ	250g/10a	2	1	2			植調剤														合計	8	2	12	農薬の使用回数	6	地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)	12	削減率 (%)	50.0%
	使用農薬名	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	地域慣行農薬使用回数																																																																												
殺虫殺菌剤	ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤	50g/箱	3	1	3	1																																																																														
殺菌剤	エコホーフ	200	1	1	1	1		5																																																																												
	タチガレン粉剤	3~6g/箱	1	1	1																																																																															
殺虫剤								3																																																																												
除草剤	ビラクノンフロアブル	500ml/10a	1	1	1			4																																																																												
	ヤイバジヤンホ	250g/10a	2	1	2																																																																															
植調剤																																																																																				
					合計	8	2	12																																																																												
農薬の使用回数	6																																																																																			
地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)	12																																																																																			
削減率 (%)	50.0%																																																																																			
(7) 雑草防除	水溶性溶解マルチフィルムの苗床全面敷設による除草 初期剤、初中期一発処理剤による体系処理																																																																																			
(8) 水管理	深水（13cm程度）にして、雑草の生育抑制、水温の均一化を図っている。																																																																																			
(9) 収量の状況	600kg/10a																																																																																			
(10) その他特記事項	種籾は、毎年更新している。 珪酸塩白土は、育苗箱土壌にも使用し、健全育苗している。 肥料を控えたり、珪酸塩白土を施用し、倒伏させないようにしている。 水稲用にがりを施用して、食味向上を図っている。 株間18cm、条間30cmとし、風通しを良くしたり、分けつを促進している。 釣糸を張って、すずめ等の食害を防いでいる。																																																																																			

3 販売状況	(1) 主な販売地域	長野市
	(2) 販売方法	道の駅、JA直売所、自社直売所、消費者への直接販売（ネット通信販売）等
	(3) 県認証の活用方法	容器包装類への貼付 自社直売所の看板への表示、ネット通信販売のホームページへの掲載 宅配商品に入れる説明資料への表示
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	消費者は、県認証マークや特別栽培米の表示があることで、購入してくれる。

始めた 動機	建設業を営んでいるが、公共工事減のため、農業経験もあることから、平成19年に自然に優しい・安心・安全な農産物生産を目指し農園を設立した。高齢などにより、耕作放棄地となっていた農地を借りて、農産物を生産している。
コメント	高齢耕作者を支援すること、安全・安心・新鮮な農産物を消費者へ届けることを理念として農業へ取り組んでいる。自社の色彩選別機などの利用による高品質化、高性能農業機械利用による省力化、資材の大量購入による低価格化にも取り組んでいる。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
耕起施肥										堆肥・耕起				耕起				基肥																			
育苗 ～ 収穫															○			◎							出穂												
病虫害防除													菌	菌				虫菌注																			
除草																		草																			
土づくり 施肥	4月中旬までに自家製の完熟サフォーク堆肥250kg/10aを施用し、4月中旬、5月上旬に耕起珪酸塩白土100kg/10aを施用し、稲の倒伏を防止している。																																				

(注)殺虫剤・いもち病予防剤(苗箱)

凡例 ○: 播種 ◎: 田植 □: 収穫

虫菌: 殺虫殺菌剤 虫: 殺虫剤 菌: 殺菌剤 草: 除草剤

ここがポイント!

<減農薬技術>

殺虫剤2成分(1成分は微生物農薬)、殺菌剤2成分を苗箱施薬し、その後の発生を予防している。出穂の2週間前に、畦草を中刈にして、カメムシのほ場への侵入を防止することで、本田では殺虫剤を使用しない。除草剤(3成分)を適期に使用することで、慣行に比べ1成分減らしている。

<減化学肥料技術>

サフォーク堆肥の連用により、基肥の窒素を3.5kg/10a(地区慣行施肥量9kg/10a)に抑えている。肥効が続くため、追肥はしない。

<販売方法>

自社の乾燥室、低温送風乾燥機、冷蔵庫、精米機、色彩選別機を活用し、精米している。認証マーク、「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づく特別栽培米であることも表示して、自社や地域の直売所等で販売したり、インターネット販売、自動車移動販売をしている。米粉加工にも取り組んでいる。

<栽培状況等の写真>



温湯種子消毒



自家製堆肥の製造状況



生育状況